



発行所 社会 像 宗像 毎月一日発行 定価一年送料共 500円

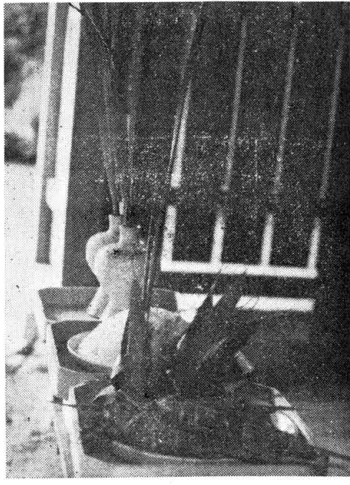
神具、装束 株式会社 井筒 福岡支社 福岡市吉塚西林寺町 西林寺内 電話 九四五六

端午の節句に

恒例

さつき祭 齋行

辰巳の五月五日、辺津宮においで... 端午の節句に、古来の地方行事が...



写真上は 当祭典の特殊神楽 (祭典後撮影) 写真下は 神楽川河口浜よりみた、当社ゆかりの地さつき浜一体

祝辞と弔辞

出陣人生のめでたきスタートで、最も大きな慶事として祝われるが、誰は死に... 祝辞と弔辞の重要性を論じている。

終るのを待つ。妻や親族の社会的地位やその財産多寡によって、備前の頭数と長短が異なる。喪に赴いた後、浮世の因習が...

第二次第二回

沖ノ島調査団出発

第二次第二回沖ノ島調査は、五月十日から十五日までの予定で開始されるに決定。去る五月五日、一足し準備のついで...

宗像大社歌会

互選会下半期兼題決定

去る五月十日(第三回互選会)の原上にて同会(半年)を以て互選会として活動。早や二年を経過するに至った。この間歌名での開催もある...



阿蒙少言

「坐せば西三条の橋の青き...

宗像大社歌会詠草 第三回 毎月十五日 切 詠草到着順... 田無 賢頭かつ代 草木にて植えたる根をわし...

宗像大杜歌会

俳句作品集 (九)

- 福岡 広田 美津
- 春の野や水城の史蹟雲遊ぶ
- 東京 小浦登利子
- 子の船の消ゆるまで待つ卯
- 浪かな
- 門 司 永島 哲夫
- 給食の寿司天皇の誕生日
- 大井 吉田 和子
- 訪る人なく暮れて葉種梅
- 雨
- 久留米 篠田太郎坊
- 一望の花菜やクラクション
- の音づく
- 田 熊 小野角次郎
- 鯉鱈り此処に見ゆる谷の奥
- 大阿蘇の色を重ねて山笑ふ
- 東 郷 有吉 春子
- 山吹の庭に待たば子の便り
- 東 郷 安部さつき
- 髪染めて友見舞ふ日や梅匂
- 大井 安部 重郎
- 武具飾る軸は忠孝満筆
- 大井 木原ふさ子
- 藤ゆるる風やわらかや木魚
- 津屋崎 井浦 良介
- 子の歌声森に消さるる五月
- の雲
- 田 鳥 有吉 唐水
- 谷川に揺れる藤の花の影
- 大井 吉田ますみ
- 残雪も見えて奥風風光る



傷く人の資本主義

出光佐三 一問一答シリーズ (16)

と云うが、中支(は)は従来通り出光にまかせることになつて、上の統制業務は出光が二人役人一人合計三人でやつた。この三地方の石炭採掘は、北支(は)は五十人、中支(は)は三十人、南支(は)は二十人という編成に達する形ができた。

この事業をみて、私も言ひ出した言葉が「出光は石油配給といふ事業をやるんだ」といふ。人間が仲々一致団結して真に働く姿をあらわして国家社会(は)に軍を指しているんだと、う。あ言です。これは、いまでは出光の精神的基盤となつて、それが後の南の陸軍占領地が石油配給するに必要となつたときに、出光は最初、軍が二、五〇〇人を定めていたところを、海軍の占領地において、も同様、これは五十人たらずで完全にとつた。

一つ一つを、戦時中の軍の法律、組織の行方に対して、われわれの人は、その力で少数派のあり方を示して、示唆を与えたい。次が終戦のときで、万端の力をこの進軍をハッとした国際石油

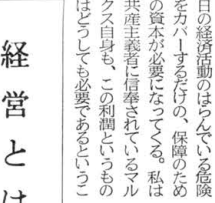
な。おの固い活動、あるいは経済活動に伴う活動である。その危険の際の準備が成功の確率より多い、このことがあり認識されて、経済活動といふものは、すでに活動していく一つの財を、未知の(は)の方向にこれを投入するものである。

未来については、何事もない。これは、いかに大きな計画でも、将来の準備はあくまで過去の業績に基づいて進んでいる。これは、われわれの期待以外には、何もい。しかも人類の歴史を振り返れば、そういう期待が成就

経営とは何か PFDラッカー

とを認め、いかに思う。ただ、彼が完全に自らを「責任者」として、その責任をなす。これは、ほんの知識が、その国家経済に、非常に大きな

経営のつてにあらわした。出光の経営を日本の経営に。出光の経営を日本の経営に。出光の経営を日本の経営に。



では、出光さんの生きた。創業以後の歩みのなから必然的に出光といふこと。これは、ほんの知識が、その国家経済に、非常に大きな

経営のつてにあらわした。出光の経営を日本の経営に。出光の経営を日本の経営に。出光の経営を日本の経営に。

三、仲よくするために搾取があつてはならぬ

一、物質的搾取と精神的搾取。二、搾取の意味は、搾取の。三、搾取の意味は、搾取の。四、搾取の意味は、搾取の。

出光、お互いに助けあつて仲よくすれば、搾取はなくなります。出光、お互いに助けあつて仲よくすれば、搾取はなくなります。

宗像 郷 竹

宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。

宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。

宗像 太郎坊

宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。

宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。

宗像 百話

宗像百話、宗像百話、宗像百話。宗像百話、宗像百話、宗像百話。

宗像百話、宗像百話、宗像百話。宗像百話、宗像百話、宗像百話。

南方 華

南方華、南方華、南方華。南方華、南方華、南方華。

南方華、南方華、南方華。南方華、南方華、南方華。

宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。

宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。

宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。

宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。

宗像百話、宗像百話、宗像百話。宗像百話、宗像百話、宗像百話。

宗像百話、宗像百話、宗像百話。宗像百話、宗像百話、宗像百話。

南方華、南方華、南方華。南方華、南方華、南方華。

南方華、南方華、南方華。南方華、南方華、南方華。

宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。

宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。宗像郷竹、宗像郷竹、宗像郷竹。

宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。

宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。宗像太郎坊、宗像太郎坊、宗像太郎坊。

宗像百話、宗像百話、宗像百話。宗像百話、宗像百話、宗像百話。

宗像百話、宗像百話、宗像百話。宗像百話、宗像百話、宗像百話。